

# たちだより 第16号



スタッフ紹介

## 訪問日記

入院中は寝たきりで食事もほとんど取れなかったSさん。退院して1年半、リハビリを続けて歩行器で歩けるようになりました。食欲も旺盛です。母娘満面の笑顔で迎えて頂き元気をもらっています。

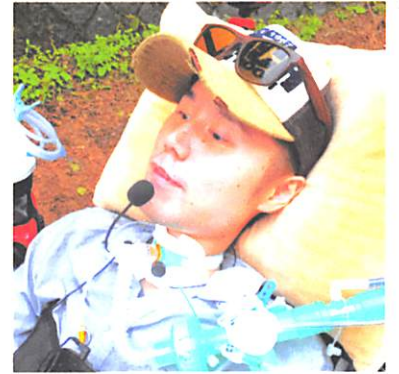


TEL : 048-646-4701  
FAX : 048-646-4700  
Eメール : touch@nishiohmiya-hp.or.jp

# 訪問看護を利用して

私は大宮区在住の梶山紘平です。筋ジストロフィーを患っているため人工呼吸器を使い、食事は主に胃瘻からです。

ヘルパーを24時間付けて親元から離れて独り暮らしをしています。介護保険ではなく障害者総合支援なので24時間ヘルパーを付けることが可能です。自分で求人を出し面接を行い採用して事業所に登録してもらって自薦ヘルパーを使っています。介護のやり方の基本を自分で教えて、ヘルパー同士で話し合ってもらいやり方を更に改善させていきます。吸引や胃瘻などの医療的ケアについては、日本ALS協会主催の講習をヘルパーに受けてもらい、合法にしたうえでヘルパーが



行っています。ただ、浣腸については合法にならないので、訪問看護に依頼しています。土曜日対応の訪問看護が見つからず困っていましたが、タッチさんが引き受けてくれたので安定した生活を送っています。

先日はヘルパー達と富士5合目まで行き、山中湖のホテルで一泊しました。旅行は12年ぶりで素晴らしいひと時を過ごせました。



母が5月の連休前に倒れ、西大宮病院に1週間入院の後、家に帰って来た時はこのまま寝たきりになるのではないかと不安で毎日が身が細る気持ちでした。

2ヶ月半余り泊まり込みで自分自身も限界に近づきましたが、担当の医師、ケアマネジャーさんとタッチさんの訪問看護を受けるようになり、日に日に母の状態も回復してまいりました。タッチさんの親切な対応、適切な処理には感心させられます。本人も大変喜んでいきます。これからも色々アドバイスを受け、ご相談もさせていただきます。

母も91歳ですので全ての面で良くなることはないと思いますが、言葉もはっきりし耳もよく聞こえるし私達の自慢のばあちゃんです。これからもタッチさんと長いお付き合いになると思いますが、宜しくお願い致します。

【Y様の娘様】



主人がガン末期で命に限りがあると宣告され、理解できないままの生活がスタートしました。家族中が迷っている時、縁あってタッチさんにお世話になる事になりました。往診の先生の励ましの言葉『大丈夫だよ』『いいですよ』と訪問看護師さんとの趣味の鮎釣りの話をしながら互いに大きな声で笑っている時だけはガンの痛みも不安からも解放される一時でした。家族だけでは不可能な事でした。逃げられない現実、覚悟が必要な事、頑張り過ぎない事をアドバイスしてもらい家族一同、思いを一つに可能な限り家で過ごせた事に大感謝です。

胃癌全摘から6年、再発から1年10ヶ月の闘病でした。弱い人の力強い味方、皆様、ありがとうございました。

【Kさんの奥様】